

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																							
ET45G010		発達査定特論(Special Seminar on Developmental Assessment)					教育心理学																							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																								
選択	2	1	大学院教育学 研究科			氏名 佐藤 晋治 E-mail ssato@oita-u.ac.jp 内線 7531																								
授業の概要	効果的な心理学的発達臨床を可能とするには、援助対象者の支援ニーズに関する的確な評価が必須である。本特論では、その際の一つの手段として用いられる日本版 Vineland- 適応行動尺度を実施した事例検討を通じて、本検査の実際、背景理論、そして援助・援護・教授のパラダイムによる心理学的支援の具現化について学ぶ。																													
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						
目標1 Vineland- 適応行動尺度の意義、及び留意点に基づいて、援助対象者の支援ニーズに関する的確な評価をすることができる。																														
目標2 Vineland- 適応行動尺度の背景理論と測定値の意味に基づいて、援助対象者の支援ニーズに関する的確な評価をすることができる。																														
目標3 Vineland- 適応行動尺度による支援ニーズの評価に基づいて援助・援護・教授のパラダイムによる心理学的支援方略を具現化する。																														
目標4																														
目標5																														
目標6																														
目標7																														
目標8																														
目標9																														
目標10																														
授業の内容																														
1 日本版Vineland- 適応行動尺度の意義																														
2 日本版Vineland- 適応行動尺度における解釈の実際																														
3 日本版Vineland- 適応行動尺度における解釈の実際																														
4 日本版Vineland- 適応行動尺度における解釈の実際																														
5 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
6 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
7 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
8 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
9 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
10 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
11 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
12 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
13 日本版Vineland- 適応行動尺度の解釈に基づく事例検討																														
14 まとめと補足																														
15 まとめと補足																														
ラーニング	A:知識の定着・確認	演習、小テスト、小レポート、予習、復習、宿題、調べ学修(論文、書籍、インターネット等)				工夫 その 他の	動画の活用、LMS(Moodle)の活用																							
ニ	B:意見の表現・交換	プレゼンテーション、学びの省察、																												
ン	C:応用志向	ロールプレイ																												
グ	D:知識の活用・創造																													
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	Moodleに掲載された講義資料を事前に予習し、必要に応じて、論文、書籍、インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり90分)。																												
	事後学修	講義で学習した内容を振り返り、講義で扱った内容や関連する課題について論文、書籍、インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり90分)。																												
教科書	必要に応じて、プリントを配付する。																													
参考書	必要に応じて、なるべく最新のものを紹介する。																													
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																		
	定期試験	60%																												
	討論への積極的な参加	20%																												
	小レポート	20%																												
注意事項	講義内でMoodleを使用することがあるので、Moodleを閲覧できる媒体(スマホ、タブレット端末、ノートPCなど)を持参すること。また少なくとも週に1度はMoodleのこの科目のページを閲覧すること。																													
備考	2019年度不開講																													
リンク	URL																													